

外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

認定特定非営利活動法人名古屋 NGO センター
理事長 西井和裕

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

5 月 10 日付貴信にてご承認いただきました、NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 国際チャリティフェスティバル 2017 (ウォーカソン)

【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他 ()】

2. 出張者氏名: (特活) 名古屋 NGO センター 堀川絵美

3. 催しの概況:

- ・実施日: 2017 年 5 月 21 日 (日) 10 時 00 分～16 時 00 分
- ・場 所: 愛・地球博記念公園
- ・来場者: 約 2000 人
- ・概 要: 「ウォーカソン」は名古屋国際学園、在日米国商工会議所等で構成する実行委員会が主催するイベント。イベント会場内に、NPO/NGO による活動紹介のためのブースが設置された。写真を使ったクイズ、国際協力ボランティアについての紹介、地域の NGO の活動紹介を行った。

4. 実施内容: ブース訪問者: 約 50 人 相談対応件数: 合計 6 件

●主な相談内容は以下の通り

- ・スタディツアーの行き先と内容を具体的に知りたい。
- ・スタディツアーや海外ボランティアの対象は何歳からか。
- ・定年退職した後も関われるボランティアにはどのようなものがあるか。
- ・海外に興味があるが、実際に行くにはどのような知識が必要か。
- ・海外ボランティアでは、現地でどのような活動をするのか。

5. 所感および効果:

当イベントは、在日米国商工会議所と名古屋にあるインターナショナルスクールが共催するイベントです。来場者は、親子・家族連れが多く見られました。子どもに関しては、「国際協力」「ボランティア」に参加するにはまだ難しい年齢ではあるものの、保護者・親の方に対して海外ボランティアなど国際協力の活動を伝えることで、家族間での話題になったり、将来的に子供達の関心が高まったりすることを期待します。

また、会場では、大学生がボランティアとして多く関わっており、来場者だけではなくボランティアスタッフにも広く国際協力活動を伝えました。学生を派遣した大学の教授がブースに立ち寄ってくれ、当センターの活動紹介と、学生へのイベント広報を行い、今後の大学との連携の可能性を得られ

ました。

積極的にブース立ち寄っていただいた来場者からは、「海外ボランティアではどの国に行くのか」「どのような活動をするのか」といった質問が寄せられました。現地での活動をイメージできれば行動につながると考え、具体的に紹介しました。

当団体では、6月以降、加盟団体のスタディツアーの紹介および申込へとつなげる説明会、また、次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジの開催を予定しており、国際協力のへ関心を高めることを目的に、来場者への広報を行いました。

今回のように、来場者が多く集まるイベントに出展することで、より多くの方に国際協力を少しでも身近に感じて頂くことができるため、今後も積極的に出展していきたいと思います。



以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：『大阪 YMCA 国際専門学校』における SDG s、国際課題、国際協力 NGO に関する講演及びワークショップの実施
2. 実施者：谷川詩織 / (特活) 関西 NGO 協議会
3. 日時：2017 年 5 月 26 日 (金曜日)
4. 場所：大阪 YMCA 国際専門学校国際高等課程国際学科
5. 参加者：生徒約 30 名、教員 2 名
6. 実施報告：

<内容>

前半には講義を通じて、世界の現状や抱える課題と私たちの生活とのつながり、SDG s などの世界の流れ等について伝え理解を深めた。また、社会課題の解決のためにどのような NGO が世界で活躍しているのか、さらには、NGO で活動する方法や仕事としての国際協力・NGO についても伝え、国際協力分野全体への理解を深める内容とした。後半にはスマートフォンと世界の問題（紛争など）とのつながりを構造的に理解し、その解決のために自分たちができる行動を考える時間を設けた。

<所感>

概要を理解する講義の後、「自分たちにできること」を考えたグループワークの中で、「鉱物の最低取引価格を設定」「大量生産大量消費型の生活を変えていく努力をする」「SNS などと同世代に世界の現状や解決に向け活動する団体を広げていく」などのアイデアが出てきた。世界の問題と生活をつなげる構造を理解し、消費者としての責任を認識し解決策を考える事ができた。今回の目標「未来を担う若い世代が、持続可能な社会を実現するために市民としてできることを考え、自ら行動に移すきっかけとなる」についてはある程度達成できたと考えている。

7. 別添（写真）



講義後に撮影した集合写真

以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：中国短期大学「地域創生論」（形態：講演）
2. 実施者：山上正道（特活）AMDA 社会開発機構
3. 日時：2017年5月23日（火）13:10-14:40
4. 場所：中国短期大学4号館4階4401教室
（住所）岡山市北区庭瀬83番地
5. 参加者：46名
6. 実施報告：

講演を通じて、国際協力や NGO/NPO 活動、開発途上国の課題や農村の状況とともに、団体の現場での活動から、事例に基づいた課題解決の方法を伝えることができた。

講演後のワークショップでは学生それぞれがもつ疑問や、自分たちの課題、国際協力へのかかわりかたや、すぐに実践できる活動などが発表された。

「遠くの活動だけど自分たちの暮らしにも大きく関わっていることを知ることができました」とのコメントもあった。

この出張サービスで、学生が国際協力に関心を持つきっかけや、実際に取り組みを始める参考となる情報を提供できたと考える。

7. 別添（写真）



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：世界一大きな授業（徳島県立富岡東中学校・高等学校）
【形態：相談対応サービス・**講演**・セミナー・その他（ ）】
2. 実施者：高山 莉菜（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 29 年 5 月 9 日（火）14 時 30 分～16 時 30 分
4. 場所：徳島県立富岡東中学校・高等学校（徳島県阿南市領家町走寄 102-2）
5. 参加者数：中学 1 年生～3 年生、高校 1 年生～2 年生 約 635 名
6. 実施報告：中学生、高校生を対象に SDGs をテーマとした講演を行い、SDGs 達成に向けた具体的な取り組みとして当団体が実施するモザンビーク共和国における国際協力活動について情報提供を行った。また、SDGs に関連した四国のユースの取り組みについて紹介し、中学生・高校生のユース世代にできる国際協力について情報提供した。その後、環境省四国環境パートナーシップオフィス（四国 EPO）と連携し、世界一大きな授業として、世界の教育の現状や身近なものを題材にした消費者の「選択」と世界のつながりについて学びを深めた。さらに、当日は相談員主担当者がモザンビークへ出張していたため、授業の後半には、モザンビークの高校と skype で接続することができた。高校生同士の交流のサポートを行い、世界とのつながりを実感できるような授業づくりに取り組んだ。

[主な対応内容]

- | | | |
|---|------|---|
| ① | 相談内容 | 徳島にはどのような NPO・NGO があるか。 |
| | 対 応 | 徳島を拠点に国際協力を行う NGO を紹介し、関心があれば直接話を聞きに行くなど自発的に情報収集することを薦めた。 |
| | | |
| ② | 相談内容 | 身近にできる国際協力について知りたい。 |
| | 対 応 | 一人の消費者として、生産者に配慮した商品の選択を心掛けることも、国際協力につながることを紹介した。 |

7. 所感および効果：本校では毎年 1 回、全校生徒を対象に ESD 講演会を実施しており、今回は SDGs を軸に、グローバルな視点で自分たちの生活を振り返り、できることを行動に結び付けることを目的に実施した。授業後の感想文の中には、「エシカル商品やフェアトレード商品を購入したい」、「世界の現状についてもっと調べてみたい」などの記載があり、今回の授業で世界の現状を知り、自分にできることを考え、行動できる人材の育成につなげることができたと考える。

8. 別添（写真）



モザンビークの高校生徒の交流



国際協力活動の具体事例を紹介

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：「さぬきマルシェ in サンポート」における相談対応
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】
2. 実施者：高山 莉菜（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 29 年 5 月 21 日（日）10 時 00 分～15 時 00 分
4. 場所：サンポート高松シンボルタワー西側通路（香川県高松市サンポート 2-1）
5. 相談対応件数：16 件
6. 実施報告：さぬきマルシェ内で実施された「フェアトレード in かがわ」ブース内で、愛媛県内の高校生グループ「wakuwaku-youth」、松山市内のフェアトレードショップと連携して NGO 相談員ブースの出展を行った。NGO 相談員のポスターの掲示およびチラシの配布を行うことで、本制度の概要説明・広報を行った。さらに、来場者よりフェアトレード、国際協力活動、NGO/NPO、SDGs に関する質問があり、持参した資料（冊子「四国・国際協力と ODA」、SDGs チラシなど）を活用して説明を行った。

[主な対応内容]

- | | | |
|---|------|--|
| ① | 相談内容 | NGO 相談員制度とは何か。 |
| | 対 応 | チラシを活用して制度の内容について説明した。全国に相談員受託団体があり、当団体が四国ブロックの担当をしていることを紹介し、無料で実施できる出張サービス制度についても情報提供した。 |
| ② | 相談内容 | フェアトレードに取り組む四国の NGO について知りたい。 |
| | 対 応 | 冊子「四国・国際協力と ODA」を活用し、フェアトレードに取り組んでいる四国の NGO の情報を提供するとともに、高校生、大学生などの活動状況について情報提供を行った。 |
| ③ | 相談内容 | SDGs とフェアトレードのつながりについて知りたい。 |
| | 対 応 | SDGs の 17 項目のうちフェアトレードに関連している目標について資料を用いて説明を行った。また、過去に四国で実施した SDGs とフェアトレードをテーマとした研修の内容や、四国のユースとの連携についても情報提供し意見交換を行った。 |

7. 所感および効果：さぬきマルシェの開催趣旨は、生産者のこだわり・思いとともに県産品の PR をすることとされており、地産地消・エシカル消費などに関心を持っ

ている来場者も多く見られた。そのため、フェアトレードに関する理解が得られやすい面もあり、国際協力活動や SDGs と関連させながら説明を行うことができた。

8. 別添（写真）



NGO 相談対応ブース



ユースと連携したブース出展